
ベルの音

犬坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ベルの音

【Nコード】

N0547B

【作者名】

犬坊

【あらすじ】

突然聞こえてきたベルの音。その正体は・・・

朝、通勤の電車の中で突然大きなベルの音がした。

周りを見回したが、音の発信源は分からない。皆はどういうわけかこの音に気が付かないようだ。

しばらくは我慢していたが、我慢が限界に達すると、途中下車して会社に連絡を取って

近くの耳鼻科を探した。そうは言っても楽じゃない。なにしろ大きなベルの音に遮ら

れて相手の声が聞き取りづらいのだ。何度も聞き返すと、相手はいたずらと勘違いして

立ち去ってしまったのだ。やっとのことで、耳鼻科に到着。

受付でも同じような目にあった。待合室で待っている間も音は鳴りやまなかった。

耳をふさいだり頭を振ってみたり、周りから見れば奇妙な行為に見えただろうが、

こっちは音から逃れようと必死なのだ。

医者の方もとても困っていた。耳鳴りというのはあるが、

相手の声が聞こえないほどの大きな音がする耳鳴りなど、例がないからだ。

とりあえず耳を覗いたが、案の定何もなかった。医者が困り果て、首をかき上げていると

何の前触れもなく音は止まった。

医者は「また、こんな事があつたら来て下さいね。」と言った。

もう二度とこんな体験したくない。会社にも

「体調が戻ったので出勤します。」

と連絡を入れて、ゆうゆうと会社へ向かう。

あんまり調子が良いからと言って、エレベーターをやめて階段を使ったのが悪かった。

段を踏み外して頭を強く打ってしまった。俺の周りに人だかりができた。

知り合いが携帯で救急車を呼んでいるようだ。だんだんと気が遠くなっていく。

救急隊員らしき人が来て俺を担架で運んでいった。

「もう、だめかな。」

俺は死を覚悟した……………

さわやかな朝。時計はちょうど8時を指していた。

天気は快晴。雲ひとつない気持ちのいい青空だ。小鳥も嬉しそうに鳴いている。

ベランダのカーテンからもれるやわらかい朝日の下で、俺は目を覚ましてこう言った。

「チクショウ！せっかく目覚まし時計を買ったのにまた寝坊してしまった。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0547b/>

ベルの音

2011年1月19日03時54分発行